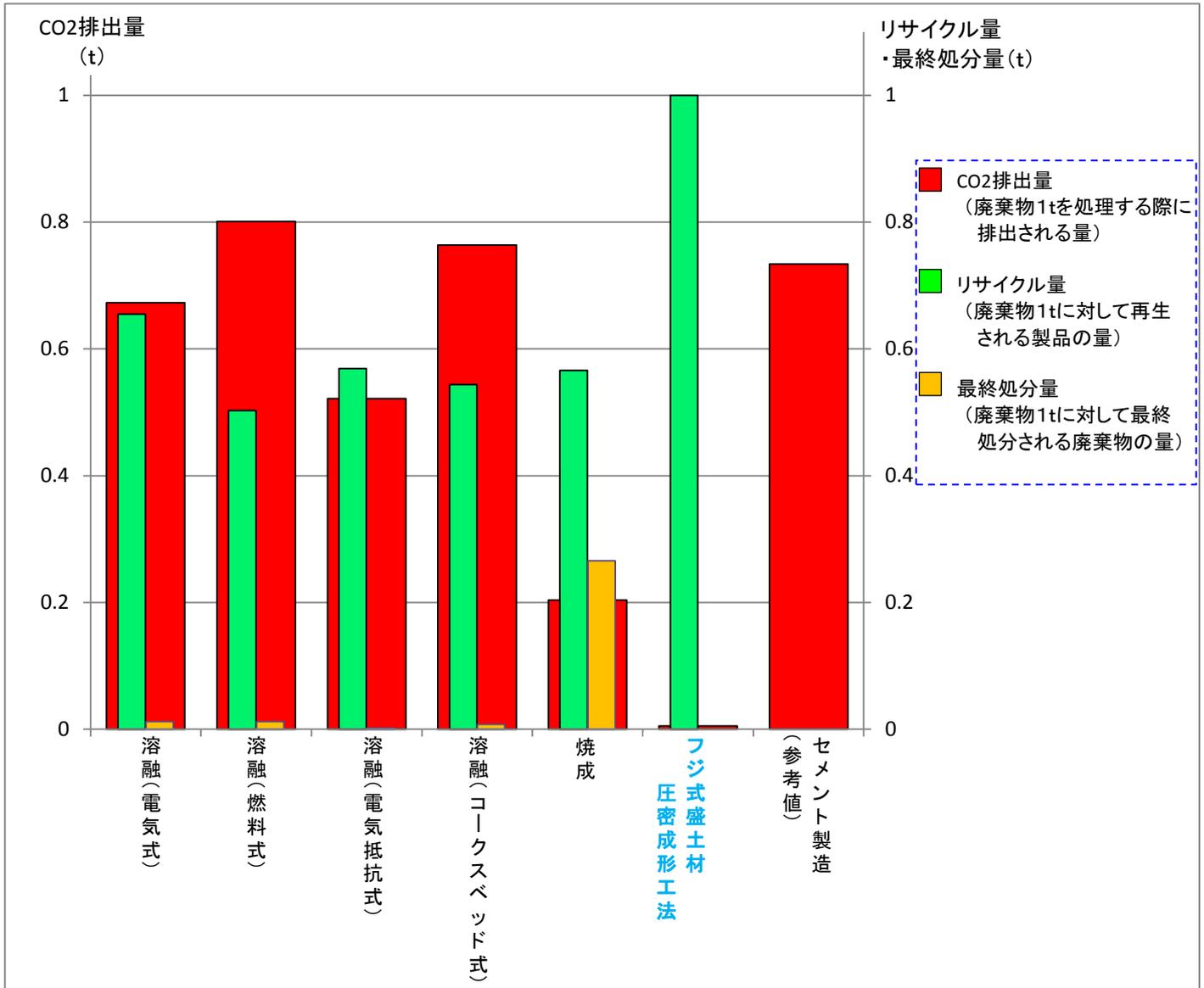


## 【再生方法別CO2排出量とリサイクル量の比較】

※溶融・焼成は、循環型社会における3Rに関する調査研究報告書より(平成22年版)

焼却灰1トンを使用し再生品を生産する際に発生するCO2の量、および焼却灰1トンから生産される再生品の量、再生出来ずに最終処分する必要の有る量(新たに発生した廃棄物を含む)の例を示しています。

(注)表中の数字は、あくまで一例であり、実際の施設の数値は、各施設の処理能力・稼働時間・廃棄物の性状等の要因により異なります。



種類	CO2 排出量 (t)	リサイクル		最終処分	
		リサイク ル量 (t)	再生品	最終処分 量(t)	最終処分物
溶融	電気式	0.6726	0.6550	溶融スラグ・溶融メタル	0.0120 溶融飛灰
	燃料式	0.8011	0.5030	〃	0.0120 〃
	電気抵抗式	0.5215	0.5690	〃	0.0017 〃
	コークスベッド式	0.7636	0.5440	〃	0.0077 〃
焼成	0.2039	0.5660	人工砂	0.2660	飛灰、焼成飛灰
フジ式盛土材 圧密成形工法 (参考)	0.0054	1.0000	フジ式盛土材	0.0000	(発生しない)
セメント製造	0.7340				

※1 溶融・焼成は、溶融・焼成処理のみを対象とし、その後の不要物処理に要するCO2排出量は含んでいません。

※2 フジコーポレーションは、盛土材圧密成形期間(15年を想定)中および盛土材圧密成形完了後2年間の浸出水処理でのCO2排出量を含んでいます。